

生横濱

逸話篇に親しむ

論達第四号にもお示しいただくように、「教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである」。

教祖ひながたの道に親しませていただくべく、教会では夕づとめの後に、『稿本天理教教祖傳逸話篇』を拝読させていたただいております。昨夕読ませていただいた「一〇四、信心はな」

立教188年
5月号
(通算第291号)

発行者
天理教生横濱分教会

に、よく前会長が仰っていた事が書かれていたので紹介（一部原文のまま）させていただきます。

明治十五年に富田伝次郎が長男米太郎の胃病をおたすけ頂いたお礼に、生母の藤村じゅんを伴って初めておちば帰りをさせていただき、教祖にお目通りさせていただいたときのお話です。教祖から「あんた、家業は何をなさる。」と問われ、「はい、私は蒟蒻屋をしております。」と、お答えした。すると、教祖

は、「蒟蒻屋さんなら、商売人やな。商売人なら、高う買うて安う売りなはれや。」と、仰せになった。そして、尚つづいて、「神さんの信心はな、神さんを、産んでくれた親と同んなじように思いなはれや。そしたら、ほんまの信心が出来ますで。」と、お教え下された。

ところが、どう考えても、「高う買うて、安う売る。」という意味が分からない。そんな事をする、損をして、商売が出来ないように思われる。それで、当時お屋敷に居られた先輩に尋ねたところ、先輩から、「問屋から品物を仕入れる時には、問屋を倒さんよう、泣かさんよう、比較的高う買うてやるのや。それを、今度お客さんに

売る時には、利を低うして、比較的安う売って上げるのや。そうすると、問屋も立ち、お客も喜ぶ。その理で、自分の店も立つ。これは、決して戻りを喰うて損する事のない、共に栄える理である。」と、諭されて、初めて、「成る程」と得心がいった。

商売をしていた前会長が「高う買うて、安う売る」と話していたのを覚えています。思うに、これは何も商売人だけの事ではなく、全ての人において自分の満足より、人様に満足していただく事を最優先することが大切な事なのだと悟らせていただきます。

少しでも教祖ひながたに親しませていただくよう、皆様も『稿本天理教教祖傳』や『稿本天理教教祖傳逸話篇』を拝読される事をおすすめします。
(会長)

ご報告

・教祖ご誕生祭参拝並びに婦人会総会参加

4月18日の教祖ご誕生祭、4月19日の婦人会総会に生横濱から4名の方が御参拝くださいました。

・本部研修会受講

4月26日、27日にご本部にて開催された学修スタッフ初

回者研修会に佐々木匡理、まなびば研修会に佐々木佑人が受講させていただきました。

・全教一斉ひのきしんデー

4月29日に行われた全教一斉ひのきしんデーに生横濱からは計7名が参加し、気持ちの良い汗を喜び勇んで流させていただきました。



お知らせ

・支部名の変更

教会のある旧「保土ヶ谷支部」は、今年度から旧「中央支部」と合併して「みなと支部」となりました。

支部活動については左記の公式ラインから詳細がわかるのでぜひご登録をお願いいたします。



・ようぼく一斉活動日

みなと支部のようぼく一斉活動日は5月31日13時からです。

場所は当教会ではなく神奈川

教務支庁で行われます。

ラスト2回です。お時間ある方はどうぞご参加ください。

・kitchenあんづれら

5月17日、教会を会場にkitchenあんづれらのフードパントリー及びこども食堂が開催されます。

・支部一手一つひのきしん

5月28日は10時より大池公園周辺のごみ拾い、6月8日は9時より天理ビル周辺のごみ拾いのひのきしんをさせていただきます。どうぞご参加ください。

・教祖百四十年祭団参

来る1月26日はおやさまの百四十年祭がご本部にて執り行われます。

生横濱分教会からはマイク

バスで行かせていただく予定をしています。

どうぞ今から予定を空けていただいて、皆揃っておやさまにご挨拶申し上げたいと思います。



兵神大教会



教祖140年祭 年祭活動の方針

教祖のひながたを手本に 「明るい心」で通りきろう

【実践目標】

一、身上おたすけ

身上のたすかりを願って動き、
親神様・教祖のお働きをお見せ頂こう

一、人だすけ

人のたすかりのために自分の時間を使おう

11	8	7	6	3	1	6	31	28	26	25	23	17	16	11	5
日	日	日	日	日	日	月	日	日	日	日	日	日	日	日	月
生 横 濱 月 次 祭	支 部 ひ の き し ん	比 企 家 講 社 祭	邦 明 家 講 社 祭	太 田 家 講 社 祭	生 旭 月 次 祭	生 横 濱 御 霊 祭	よ う ぼ く 一 斉 活 動 日	支 部 ひ の き し ん	ご 本 部 月 次 祭	康 靖 家 講 社 祭	大 教 会 月 次 祭	こ ど も 食 堂	上 級 月 次 祭	益 元 家 講 社 祭	生 横 濱 月 次 祭

今
月
の
予
定

立教百八十八年四月月次祭祭文

護しが心何年四杯発春日誕教いのこわんり一今にま持親りぐ表旬親慎天この
 のの、を卒祭十にさ四に生祖をおのせでおつかおすち神がらに刻神ん理れ
 程世心も、活年勤れ月は祭。も働世てつ教にら許が場様たしお限様で王の
 をの晴つ至動祭める。天がそつき元いとえ揃おし、教くへ現のに申命神
 一状れてらにのさ方新理今のてを始ためいえついそ立祖、とれ到は、上御に
 同にやおぬ邁そせ々緑教月教寛さまださたてとたの場の親体導なと世界一す
 と、か連私進のてがが婦十祖政れりきせだ親めだ中の親心なきり共、に、
 共一にれたさ日い、目人八の十たにまてい神奉いに御心なきり共、に、
 に日睦通ちせにたそに会日二年いおすいた様仕たも用にい極さた、れ。
 慎もみりでて向だれ眩第に百四ざい。たおの者定今に添わみいす教つをたす
 ん早楽いはいけきぞし百つ二月なて。だつ心参め日勤わみいす教つをたす
 でくしたごたて、れい七と十み夫。きとと拝ののめせてでますけ祖をやす
 お立むだぎだ、九にこ回め七八の婦、め一者日吉励まていた慈愛の道をし
 願て、きいき日ヶ与の総ら回日みの。四をつ一柄きまていた慈愛の道をし
 い変神、また々月え旬会れ目にこひ。月真に同に日は、いる。程は、て、
 申わ人世すいの後らにがまのおとな。の剣な呼あは、いる。程は、て、
 上り和界がとつにれ心開す誕生様が。月にれ吸た、いる。程は、て、
 げまのれ大じめえ役新さま日れそと。祭つよ合まのたう心は、誠、
 す。う陽のなす。共教をにまそ寿なたて。執気教せの称てが、日、
 守ら間親、百一出。翌ごたし親。行勇よを只理り、々あ気の

胡	三	小	す	太	拍	ち		て	地	役	献	指	賛	扈	祭
弓	味	琴	り	鼓	子	ゃ	笛	お	方	割	饌	図	者	者	主
勝	佐		佐	比	亀		佐	前	佐	座	佐	真	比	佐	会
田	々		々	企	井		々	会	々	り	々	下	企	々	長
好	木		木	靖	美		々	長	々	づ	々	育	靖	々	
子	千		佑	章	子		木	夫	木	と	木	久	章	邦	
	鶴		人				和	人	邦	め	邦	明		明	
勝		真	前	佐	亀		佐	佐	会	前			佐	佐	
田		下	会	々	井		々	々	長				々	々	
好		育	長	木	美		々	々	夫	半			木	木	
子		久	夫	佑	子		木	木	人				佑	雅	
			人	人			千	和	敏				人	敏	
勝		佐	前	佐	亀		佐	佐	会	後		佐	比	佐	伝
田		々	会	々	井		々	々	長			々	企	々	
好		木	長	木	美		々	々	夫			木	靖	木	
子		邦	夫	雅	子		木	木	人	半		佑	章	敏	供
		明	人	敏			千	和	人			人			

祭典役割

編集 後記

みなさまこんにちは。

最近、晴れだか、曇りだか、雨だかわからないよ

うな、さっぱりしない天気が多いように感じます。ですが、田に入れる水が無くて困っている農家の方をニュースで拝見すると、雨がとてもありがたい御守護なんだと理解できます。

さて私事ですが、最近教会から離れ、比企さんの家にお世話になりながらにをいがけに歩かせていただいています。するとやっぱり神様はいるなあと思う瞬間がいくつかありましたので紹介させていただきます。

くことをよく「おやさまのお伴をさせていただく。」と表現します。お姿の見えないおやさまの名代となって歩かせていただくということです。

一日の初めに「おやさまのお伴を」と考えている日には、おさづけを取り次がせていただいたり、困っている人とよく出会います。これは私の肌感でしかありませんが、おやさまはいるなあと心底思います。

また、にをいがけには最低限の荷物しか持つて行かず、必要なものは必要な時に与わると信じ歩かせてもらっています。そんな中、平塚でひのきしんデーに行かせていただいた後、ある方から「やっぱりひのきしん着

は必要だね」と言われました。にをいがけに歩く服しか持つていませんでしたので、どうしようかと思っていると、その日の夕方に以前知り合った方から作業着を2着頂戴しました。本当に鮮やかに必要なものを必要な分与わり、これまた、神様だなあと心底思いました。

これら全てがたまたまだと言われたら、たまたまなのかもしれない。しかし、それらのたまたま一つ一つに感謝できるのは信仰のお陰であって、神様という存在を通して物事を見るからこそたんのうができるのだと思います。これからそんな「たまたま」を積み重ねて信仰を深めたいと思います。(佑人)